

「10年ぶりに北海道で全共開催！」

～第16回全日本ホルスタイン共進会～

(一社)日本ホルスタイン登録協会事業部長 國行 将敏

令和7年10月25日から26日の2日間、北海道安平町の北海道ホルスタイン共進会場で「第16回全日本ホルスタイン共進会(以下、第16回全共)」を開催します。

前回(第14回)開催が平成27年(2015年)ですから、実に10年ぶりの開催となります。

ここでは、全共の歴史と第16回全共の開催内容について紹介します。

全共の始まりと歴史

全共は、ホルスタイン種の改良度合を、各都道府県代表牛を一堂に集めて比較展示をするため、概ね5年に一度開催していますが、回を重ねるごとに規模と内容の充実を図りながら、日本酪農の発展とホルスタインの改良に大きく貢献してきました。

表1に過去の全共開催を示しました。第1回は1951年(昭和26年)、神奈川県平塚市で昭和天皇の行幸を仰ぎ開催しました。終戦後の混乱から漸く立ち直り、農家の経営安定や食生活改善など、国民の要望に応えるべく、畜産界が勢いよく盛り上がっていた時期であ

り、改良を主眼とする全国一円の共進会を乳牛が先駆けて開催しました。「各地方では出品候補牛の選定に取りかかっています。願わくは多数の名牛が見れる栄誉の日において、日本の乳牛の実力をアメリカや外国の人の前で強く誇示したいものである」と当時の刊行物に記されていましたが、気合の入り方が文面からでも伝わってきます。

第2回以降は、国内の酪農主要13道県で開催しておりますが、参加する都道府県および頭数も増えてきていることがわかります。

コンパクトな開催

これまでの全共は比較審査だけではなく、酪農理解醸成に係る催事も行っておりましたが、昨今の厳しい酪農情勢を考え、「共進会に特化した」全共を開催することとし、前回と同じく北海道ホルスタイン家畜市場内の常設施設を利用し、開催期間の短縮と式典等の行事をこれまでの全共よりも簡素化して開催いたします。このことにより、経費も少なくすることができ、

表1 全共の歴史

回次	年次	開催道県	参加都道府県	出品頭数	主な概要
第1回	1951(昭26)	神奈川県	30	157	昭和天皇行幸。戦後復興下で30都道府県から157頭出品
第2回	1956(昭31)	静岡県	36	200	5年間で国内の乳牛飼養頭数が倍増。父系牛群の部を新設
第3回	1961(昭36)	長野県	42	226	皇太子殿下(現上皇)ご夫妻台覧。小岩井農場出品牛が経産名誉賞に
第4回	1966(昭41)	福島県	42	278	出品牛に能力条件付す。町村農場が2度目の経産名誉賞に
第5回	1970(昭45)	愛知県	44	295	酪農好景気で52万人が来場。宇都宮牧場が2度目の経産名誉賞に
第6回	1975(昭50)	兵庫県	44	291	西日本で初開催。乳器の部を新設。西倉牧場が経産・未經産名誉賞に
第7回	1981(昭56)	群馬県	46	298	赤白斑牛(レッド)が初の名誉賞に。名牛クリスタンの娘牛多数出品
第8回	1985(昭60)	岩手県	44	297	岩手産業文化センターで開催。常陸宮殿下ご夫妻台覧。多回検定の部を新設
第9回	1990(平2)	熊本県	45	293	九州で初開催、沖縄県が初出品。植田牧場が2回連続で経産名誉賞
第10回	1995(平7)	千葉県	45	298	日本の乳牛発祥地・千葉県で開催。過去最高の84万人が来場
第11回	2000(平12)	岡山県	44	297	最高位牛は第9回全共名誉賞牛のET娘牛。ジャージー全共を同時開催
第12回	2005(平17)	栃木県	44	303	後代検定娘牛の展示・出品。高校生対象に牛の見方講習会開催
第13回	2011(平23)	(東日本大震災発生により中止)			
第14回	2015(平27)	北海道	42	374	北海道で初開催。過去最多374頭が出品。酪農後継者育成プログラム好評
第15回	2020(令2)	(新型コロナウイルス感染症拡大により中止)			

出品者への負担も少なくすることができます。前回よりも2日短い期間となりますが、「酪農資材器具展・技術交流会」や「後継者育成プログラム」は継続して開催します。

400頭の乳牛が北の大地に集う

出品規模は前回同様400頭としています。400頭の内訳は、ホルスタイン種が16部378頭で、一般枠13部、Jサイア3部、高校特別枠20校となっています。また、ジャージー種は4部32頭となっています。全国から選ばれた優れた牛たちが、10年ぶりに北の大地に集まります。これまで乳牛の改良に長く携わっている農家はもちろんのこと、第15回が中止になり、全共を生で見ることがない若者たちにとっても、思い出になる共進会になることでしょう。

前回よりも部が増え、見応えある審査に

表2は第16回全共の行事日程を示しています。10月25日8時から第一部の審査を開始し、第3部の審査開始と同時に開会式を行います。午前中にはホルスタイン種未經産牛の名誉賞が決定します。午後からはホルスタイン種経産牛（2・3歳級）の審査を行います。特に2歳級は出品頭数が増えることが予測されることから、第7部（Jサイア）、第8部（2歳ジュニア）、第9部（2歳ミドル）、第10部（2歳シニア）と、2歳級クラスを4クラスに編成しました。これまでの全共よりも部が多くなり、見応えのある審査となることでしょう。

10月26日も同じく8時から審査を開始します。第17部から第20部までジャージー種の審査を行ったあと名誉賞が決定。その後、第14部から16部のホルスタイン種経産牛（4歳以上）の各部審査と名誉賞決定審査を

表2 全共開催日程

2025年（令和7年）／ホルスタイン種16部 ジャージー種4部 計20部

月 日	時 間	共進会行事	式典・付帯・協賛行事等
10月24日(金)			後継者育成プログラム (共催：北海道アルパータ酪農科学技術交流協会) 12：30～14：00 (90分) ジャジング&リードマンスクール 14：30～15：50 (80分) リードマンコンテスト
10月25日(土)	8：00～11：00	第1部～第6部 比較審査 (ホルスタイン未經産)	開会宣言(8：00～) 審査委員長挨拶・審査員紹介 開会式(第3部開始後)
	11：00～11：20	【1～6部 名誉賞決定審査】	11：20～11：40 (20分) 多回出品者表彰式
	11：50～16：30	第7部～第13部 比較審査 (ホルスタイン経産)	17：00～18：30 (90分) ゴールドデン・ナショナルセール (主催：北海道ホルスタイン農業協同組合)
	16：30～16：50	【7～13部 名誉賞決定審査】	18：00～19：30 (90分) 北海道ジュニアホルスタインクラブ交流会 (主催：北海道ジュニアホルスタインクラブ) 19：00～20：30 (90分) 第16回全共開催記念パーティー
10月26日(日)	8：00～9：00	第17部～第20部 比較審査 (ジャージー種)	
	9：00～9：15	【17～20部 名誉賞決定審査】	
	9：20～11：20	第14部～第16部 比較審査 (ホルスタイン経産)	
	11：20～11：40	【14～16部 名誉賞決定審査】	11：40～12：00 (高校生の部) ハイスクール・デイリー・グランプリ
	12：00～12：20	【最高位賞決定審査】	12：30～12：50

行い、最後に各部門の名誉賞牛から最高位牛が決定します。

将来の後継者のための企画

第16回全共では前回と同じく「後継者育成プログラム」を実施します。審査開始前の10月24日午後から、酪農学園大学と共催し「ジャudging&リードマンスクール」「リードマンコンテスト」を開催します。

また、第16回全共では新たに「ハイスター・デリー・グランプリ」を新設しました。10月26日の最高位賞決定審査の前に行うもので、高等学校で出品した牛の中から最高位賞を選出しますが、言わば「高校出品牛日本一」の称号が与えられます。このほかにも（公社）中央畜産会による全国の農業高校生に向けた「牛の見かた」のライブ配信も行う予定です。さらに、北海道ジュニアホルスタインクラブ運営委員会主催による交流会やジュニア写真コンテストの開催など、将来の後継者育成のための企画が盛りだくさんとなっていますので、多くの学生が参加することを期待しております。

付帯行事など盛りだくさん

付帯行事として、酪農に関係する企業及び団体90社以上が出展し、最新の酪農器具資材等の展示と技術交流を通じて、酪農技術の向上や普及を行う「酪農資材器具展・技術交流会」を10月23日から開催します。また、10月25日夜には「第16回全共記念パーティー」も開催します。

協賛行事として、10月25日に北海道ホルスタイン農業協同組合主催で「ゴールデン・ナショナルセール」を開催します。優良な後継牛が次々と出品されますので、共進会とはまた違った楽しみがあると思います。

第16回全共に関する詳しい情報については、当協会HP内「全日本ホルスタイン共進会」ページに掲載しています。「第16回全共」で検索、もしくはQRコードを読み取り特設ページにお進みください。

第16回全共ポスター

10年ぶりに開催する全共へ多くの皆様に足を運んでいただき、酪農仲間の意欲と日本の乳牛改良の成果を目の当たりにしてもらいたいと思います。



全日本ホルスタイン共進会
QRコード